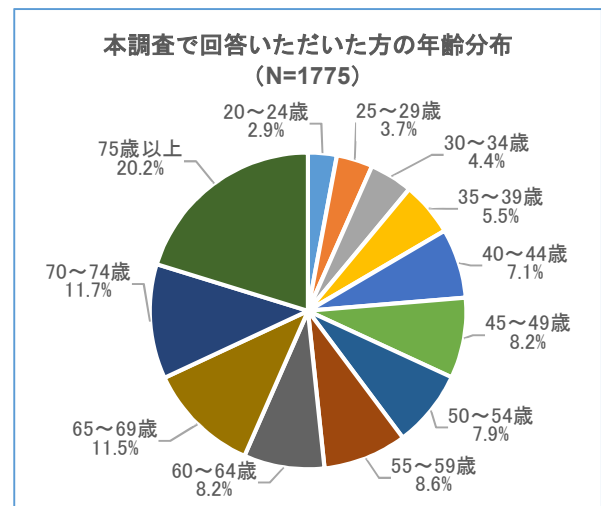


「地域福祉に関する市民意識調査」の結果報告

【調査の概要】

- (1) 調査目的 地域の支え合いや住民参加・ボランティアなど地域福祉に関する意識やニーズを把握し、次期地域福祉計画策定の基礎資料とするため、調査を行ったもの
- (2) 調査対象 北九州市に住民登録した 20 歳以上の者（無作為抽出 6,000 人）
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収（無記名）
- (4) 調査期間 令和元年 12 月～令和 2 年 1 月末
- (5) 調査項目 近隣との交流について
地域の支え合いについて
ボランティアについて など
- (6) 調査結果 配布票数 6,000 回収票数 1,939
※有効回答数 1,775

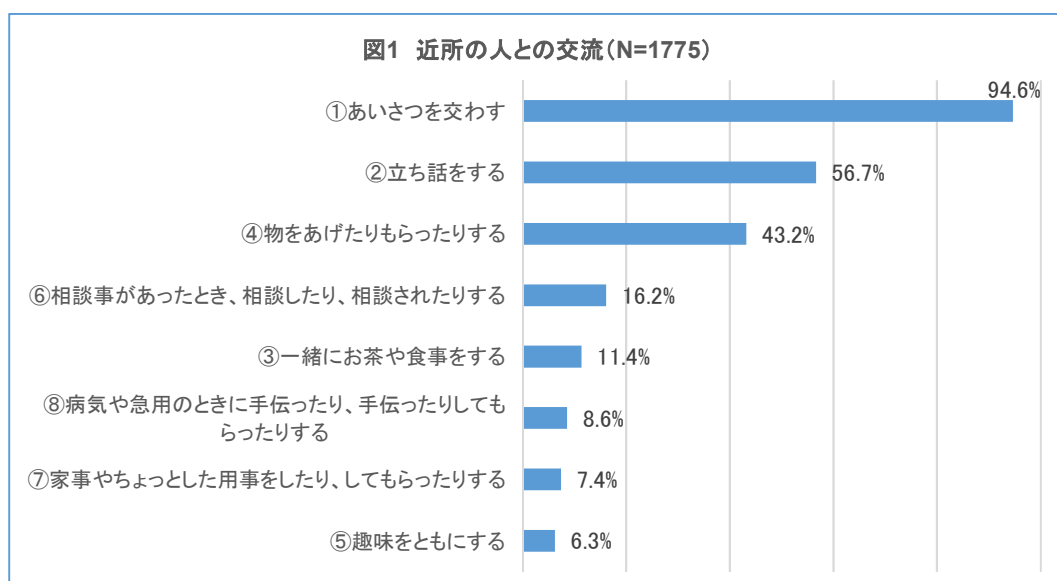


【調査結果】

1 近隣との交流について

- (1) 近所の人と行っている交流について（報告書 4 ページ）

近所の人との交流について、ほとんどの人は「あいさつを交わす」94.6%、また、約半数の人は「立ち話をする」56.7%、「物をあげたりもらったりする」43.2%であった。

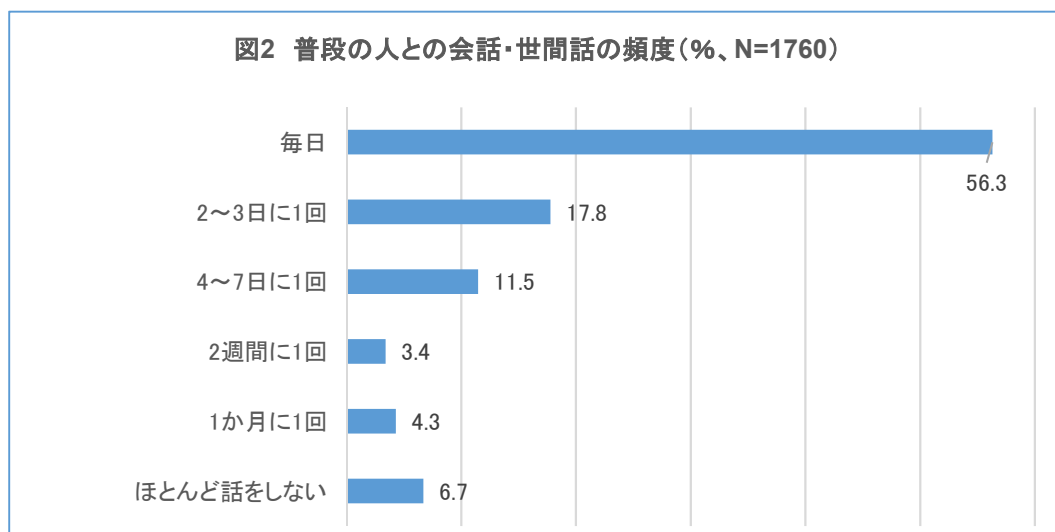


【H21】

「あいさつを交わす」57.3%、「立ち話をする」37.9%、「物をあげたりもらったりする」39.6%

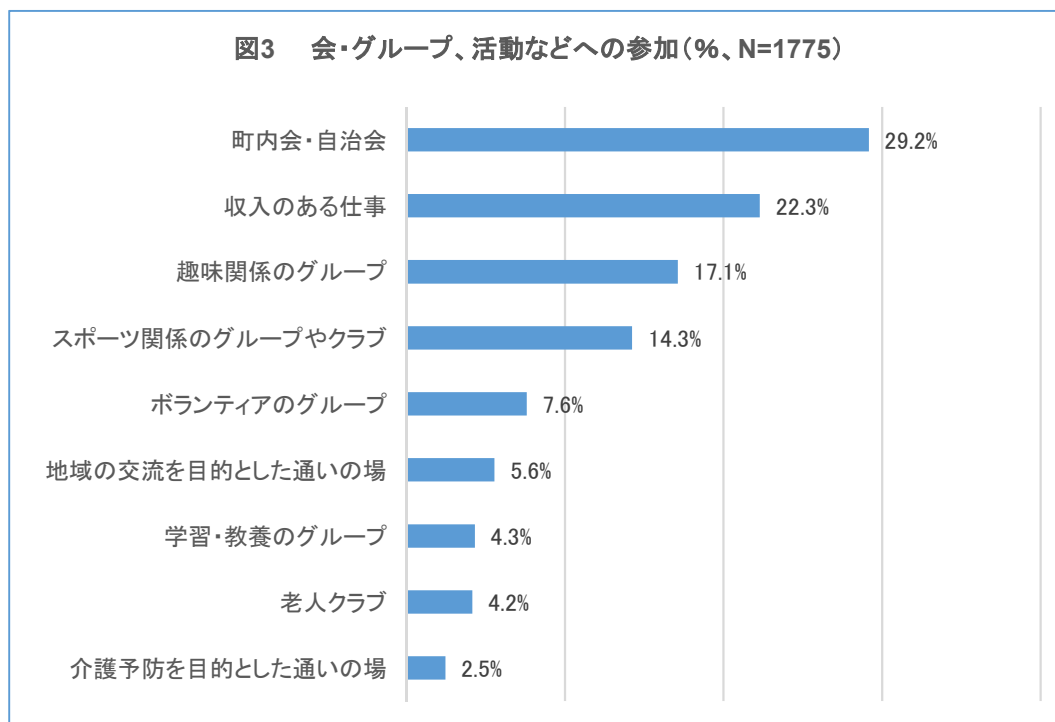
(2) 普段の人との会話や世間話の頻度（報告書 5 ページ）

相手に関係なく会話や電話でのあいさつ程度の会話も含め、普段どの程度、人と会話や世間話をするかの問いでは、「毎日」が最も多く 56.3%、「2～3 日に 1 回」が 17.8%、「4～7 日に 1 回」が 11.5%であった。一方で、「2 週間に 1 回」3.4%、「1 か月 1 回」4.3%、「ほとんど話をしない」という回答が 6.7%であった。



(3) 会・グループ、活動などへの参加（報告書 31 ページ）

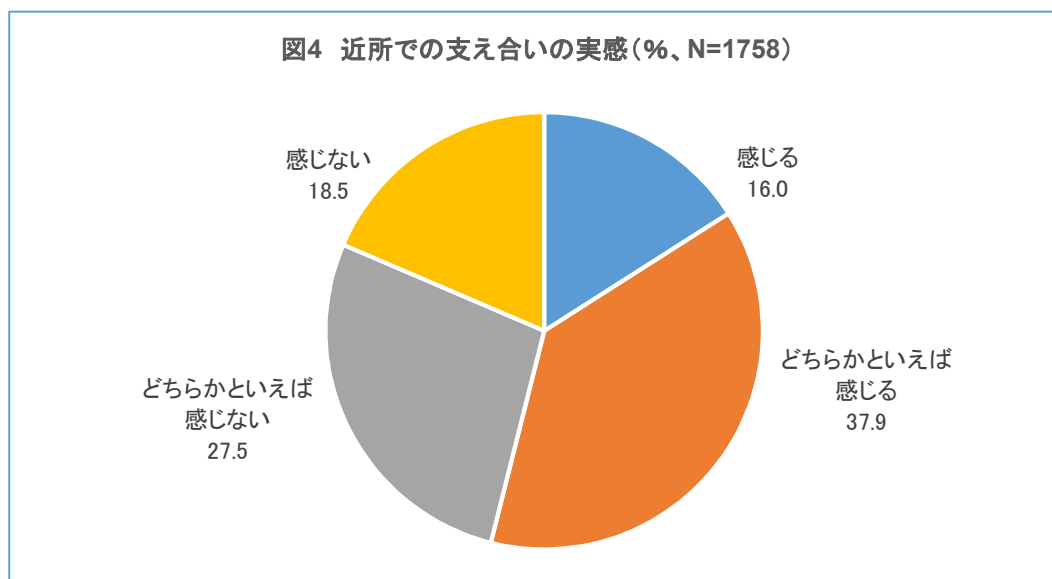
どのような会・グループに参加しているかという設問では、「町内会・自治会」が最も多く、29.2%、次に「収入のある仕事」22.3%、「趣味関係のグループ」17.1%、「スポーツ関係のグループやクラブ」14.3%、であった。



2 地域の支え合いについて

(1) 住んでいる地域で「支え合い」を感じることができるか（報告書 6 ページ）

近所の人同士で協力しあったり支援しあったりする「支え合い」について、支え合いを「感じる」16.0%、「どちらかといえば感じる」37.9%で、合わせて 53.9%の方が「支え合い」を感じており、支え合いを「どちらかといえば感じない」27.5%、「感じない」18.5%の計 46.0%を上回っていた。

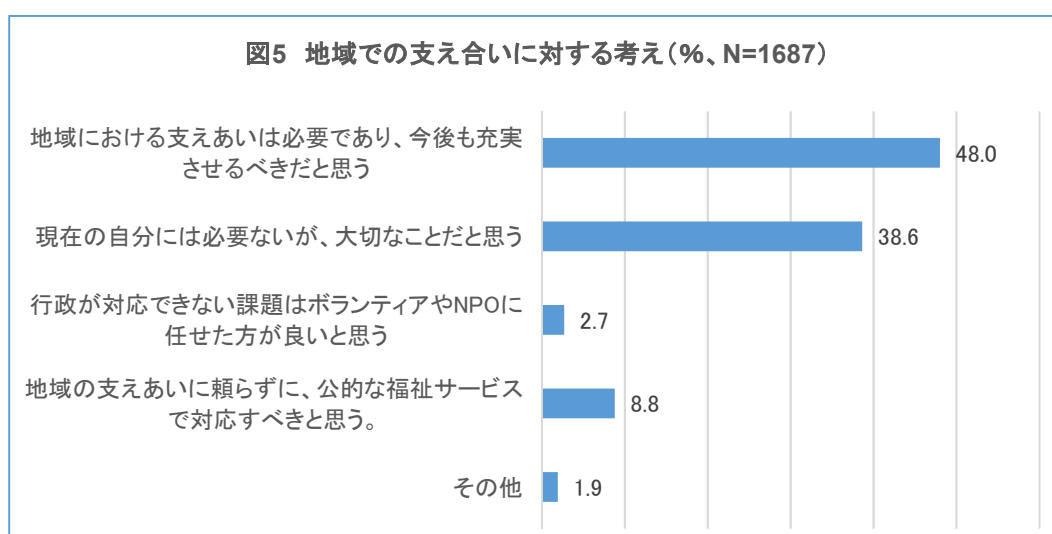


【H21】

「感じる」15.7%、「どちらからといえば感じる」32.6% → 合わせて 48.3%

(2) 地域での支え合いについてどのように考えているか（報告書 7 ページ）

「地域における支え合いは必要であり、今後も充実すべきだと思う」が 48.0%、「現在の自分には必要ないが、大切なことだと思う」38.6%で、合わせて 86.6%の人が「地域の支え合いは必要」あるいは「大切なことだと思う」と回答している。

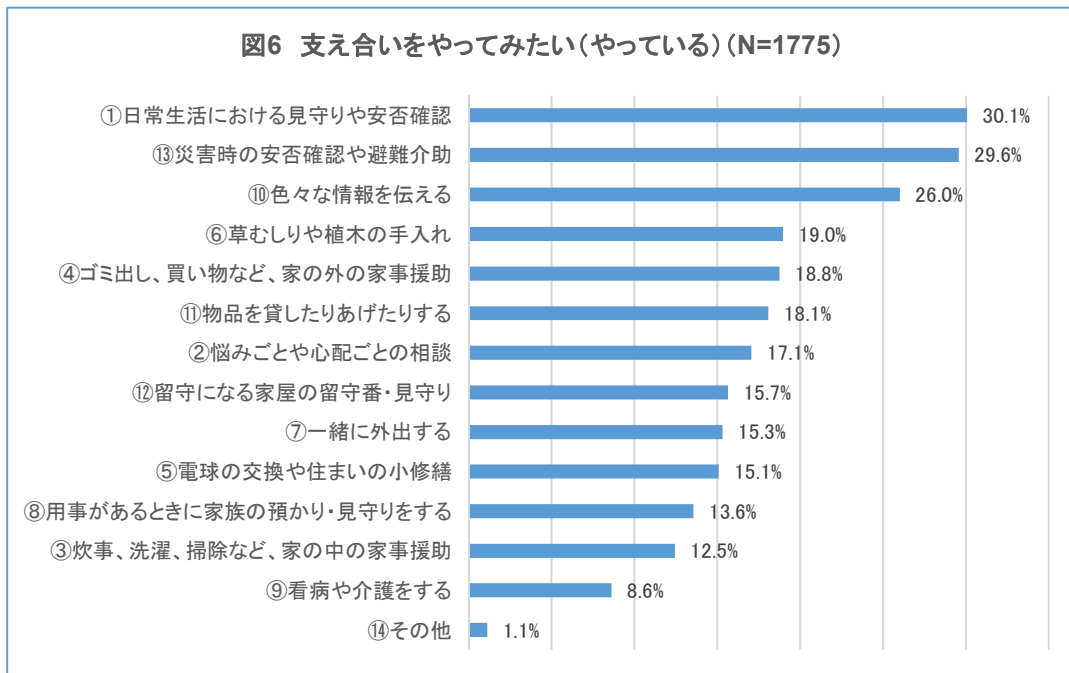


【H21】

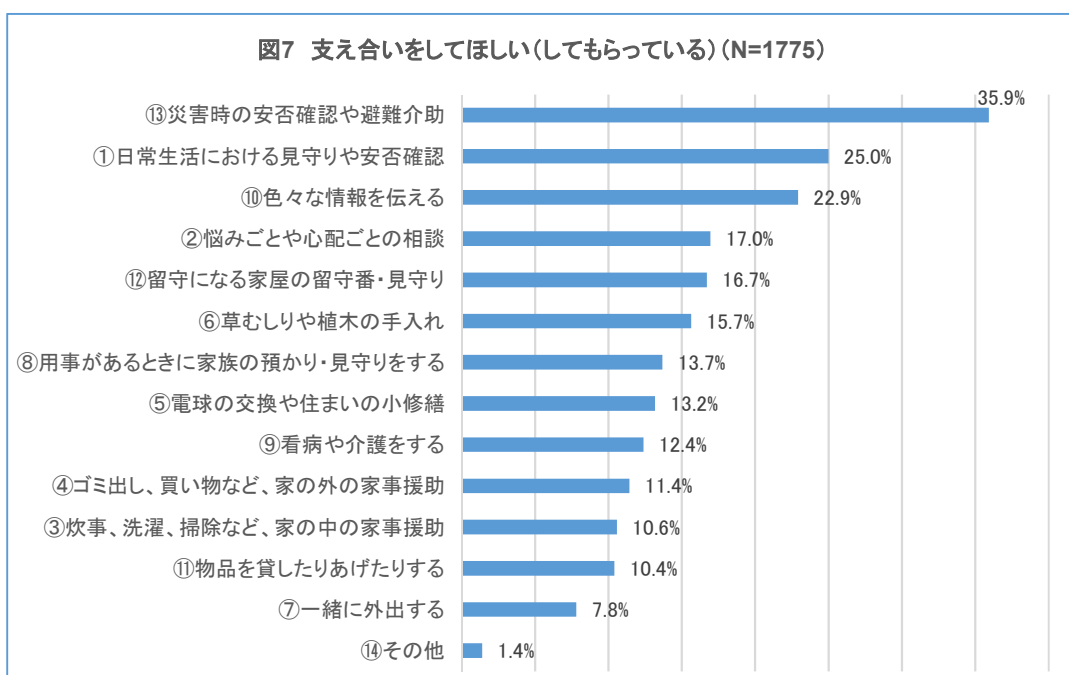
「地域の支え合いは必要」49.1%、「大切なことだと思う」34.8% → 合わせて 83.9%

(3) 地域で支え合いをやってみたい(やっている)内容、支え合いをしてほしい(してもらっている)内容について(報告書 8,9 ページ)

支え合いをやってみたいと回答した内容では、「日常生活における見守りや安否確認」が 30.1%、「災害時の安否確認や避難介助」29.6%、次いで、「色々な情報を伝える」が 26.0%で、概ね 3 割程度の方がやってみたいと回答であった。



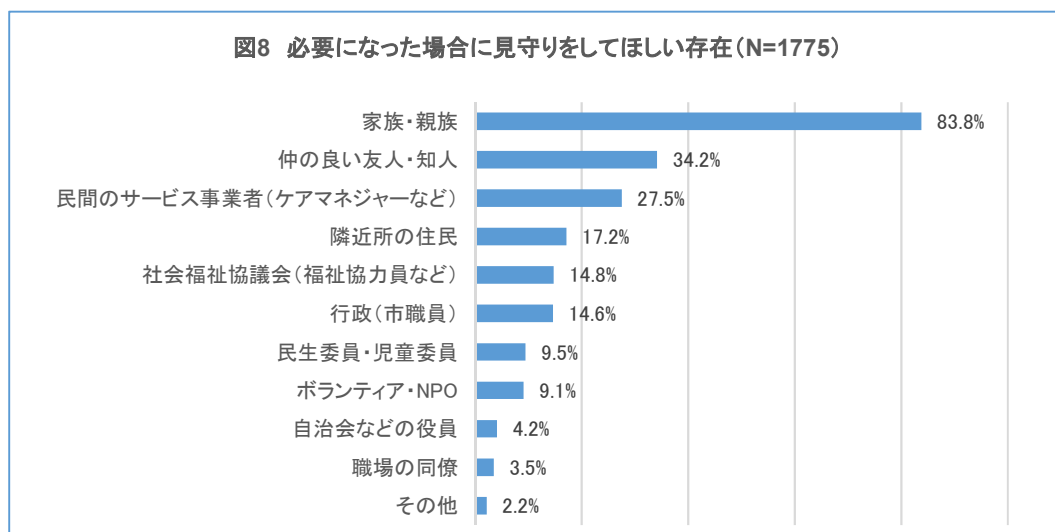
また、支え合いをしてほしい(してもらっている)内容では、「災害時の安否確認や避難介助」が最も多く 35.9%、次いで「日常生活における見守りや安否確認」25.0%、「色々な情報を伝える」が 22.9%であった。「支え合いをやってみたい」と「支え合いをしてほしい」の上位 3 項目には同じ項目が選ばれている。



(4) 見守りが必要な状態になった場合に誰に見守りをして欲しいか（報告書 36 ページ）

仮に、一人暮らしなど見守りが必要な状態になった場合に見守りして欲しい相手は、約 8 割の方が「家族・親族」83.8%で最も多かった。

そのほか「仲の良い友人・知人」34.2%、「民間のサービス事業者（ケアマネジャーなど）」27.5%と回答した方は約 3 割であった。



3 ボランティア活動について

(1) 様々なボランティア活動で、やっている・やっていた・やってみたい活動（報告書 14 ページ）

ボランティア活動でやっている活動では、「美化や清掃に関係した活動」と回答した人が 257 人(14.5%)で最も多かった。

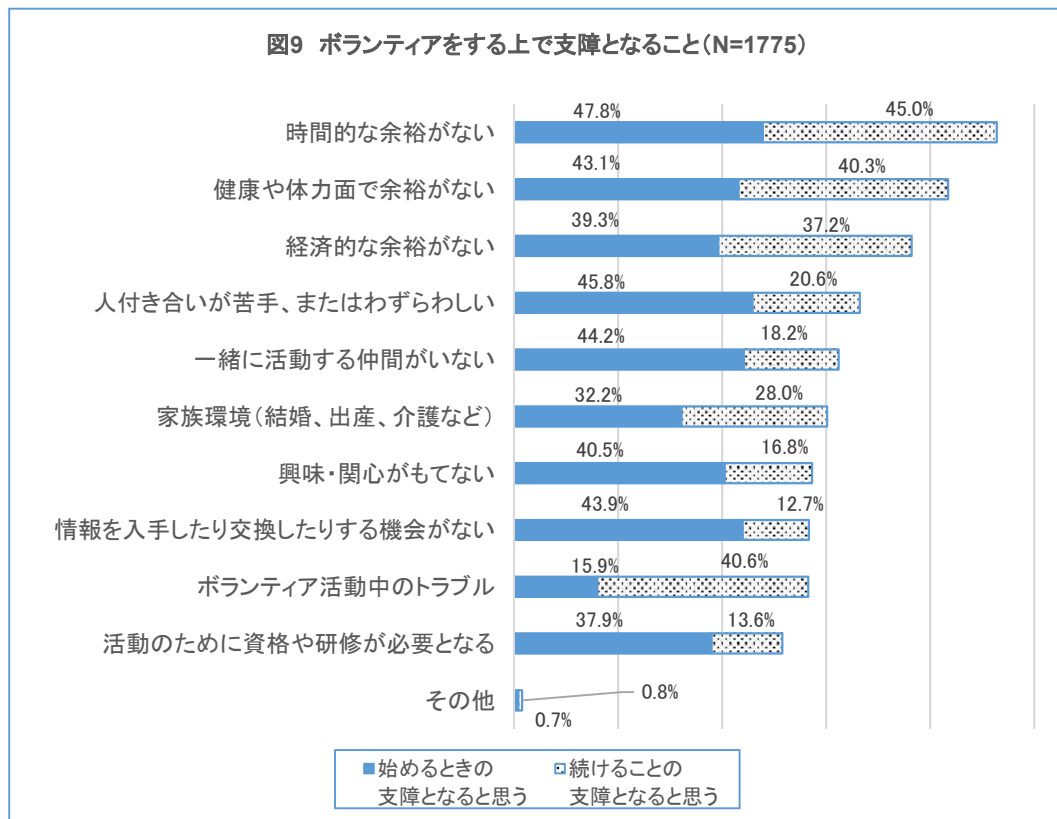
一方、やってみたいボランティア活動では、「自然や環境を守るための活動」440 人 (24.8%)、「人災害に関係した活動」437 人 (24.6%)、「安全な生活のための活動」400 人 (22.5%) など多くの活動に対して幅広く関心が示されている。

	やっている		やっていた		やってみたい	
	度数	% (N=1775)	度数	% (N=1775)	度数	% (N=1775)
健康や医療サービスに関係した活動	70	3.9%	60	3.4%	355	20.0%
食生活改善に関係した活動	49	2.8%	59	3.3%	353	19.9%
高齢者を対象とした活動	151	8.5%	114	6.4%	339	19.1%
障害のある人を対象とした活動	81	4.6%	84	4.7%	304	17.1%
子どもを対象とした活動	115	6.5%	173	9.7%	372	21.0%
教育や生涯学習に関係した活動	122	6.9%	108	6.1%	398	22.4%
まちづくりのための活動	123	6.9%	106	6.0%	332	18.7%
安全な生活のための活動	87	4.9%	81	4.6%	400	22.5%
美化や清掃に関係した活動	257	14.5%	166	9.4%	341	19.2%
自然や環境を守るための活動	91	5.1%	68	3.8%	440	24.8%
災害に関係した活動	55	3.1%	34	1.9%	437	24.6%
国際協力に関係した活動	22	1.2%	29	1.6%	330	18.6%
男女共同参画に関係した活動	22	1.2%	42	2.4%	262	14.8%
人権に関係した活動	34	1.9%	47	2.6%	259	14.6%
その他	10	0.6%	6	0.3%	48	2.7%

(2) ボランティアを始めたり、続けることの支障となると思うこと（報告書 15, 16 ページ）

ボランティア活動を始めるときの支障としては、「時間的な余裕がない」47.8%、次いで「人付き合いが苦手、またはわずらわしい」45.8%、「一緒に活動する仲間がいない」44.2%、「情報を入手したり交換したりする機会がない」43.9%であった。

また、ボランティア活動を続けることの支障となることは、始めるときと同様に「時間的な余裕がない」が45.0%で最も多かった。一方、その他の続けるときの支障としては、「ボランティア活動中のトラブル」40.6%、「健康や体力面で余裕がない」40.3%、「経済的な余裕がない」37.2%であった。



【まとめ】

- (1) 近隣との交流について、会話や世間話を「毎日」という回答が5割以上(56.3%)である一方、「月に一回」または「ほとんど話をしない」というあまり交流がない人も約1割存在している。
- (2) 地域の支え合いについて、住んでいる地域で支え合いを「感じる」という回答が5割程度(53.9%)であるが、地域の支え合いが「必要」あるいは「大切」という回答が8割以上(86.6%)あり、地域のつながりを強めていく取組が必要と思われる。
- (3) ボランティア活動について、多くの人がボランティア活動をやりたいと回答しているが、「時間的な余裕がない」のほか「健康や体力面で余裕がない」「仲間がいない」「情報入手の機会がない」など多くの理由が活動の支障となっており、ボランティア活動へのきっかけづくりも大切と考える。